

ニ ュ ー ス レ タ ー

明治大学史



Vol.2
31. MAR 2007

Center for the History of Meiji University Newsletter



布施辰治関係資料調査のようす（2006年8月1日～2日）

ニュース・ヘッドライン

特集 2006年度調査報告

I 岸本辰雄と明治法律学校関係 / II 三木武夫関係 / III
人権派弁護士関係 / IV 安藤正榮関係 / V 畑耕一関係 /
VI 武石益則関係 / VII 森川直秀関係 / VIII 光妙寺三郎・井
上正一関係 / IX 学内関係

センター業務記録 2006年7月～12月

新聞・雑誌等掲載記事一覧

特集 2006年度調査報告

センターでは全国で明治大学史に関する様々な調査・資料収集活動を行っています。ここで蓄積した資料を基に、展覧会の開催や、成果物などを刊行しています。今回は2006年度に実施されたおもな調査をご紹介します。

I 岸本辰雄と明治法律学校関係

- ①岸本辰雄及び鳥根県下明治法律学校関係資料調査〈2006年3月5日(日)出雲市立図書館情報センター(鳥根県出雲市大津町)〉

この調査では岸本辰雄の鳥根や鳥取など郷土や周辺地域での活動内容、そして明治法律学校卒業生が設立運営に関与した地方法律学校の様子を知ることを目的としました。方法としては図書館情報センター所蔵「山陰新聞」(明治22年分・マイクロ・フィルム)の閲覧を行いました。なおこの調査に関する岸本関係資料は④の調査と併せて『大学史紀要』第11号にて紹介しています(鈴木「岸本辰雄と郷土」)。詳しくは同誌をご覧ください。

(鈴木 秀幸)

*カッコ内は調査者

- ②鳥根県下明治期法律学校等調査〈2006年4月15日(土)～17日(月)、場所は①と同様〉

①の調査に続き、鳥根県における明治法律学校と地方法律学校関係記事(明治21～24年)について拾い出す作業を行いました。初期明治法律学校を卒業した校友たちは、当時の法律学習熱にも後押しされ、各人の任地や郷里周辺など、全国各地で多くの法律学校を作り、運営に関わりました。今回中心に調査した博審学校・松江法学講談会・松江法律学校などもそのうちの一つです。センターではこれらの地方法律学校の発掘作業を続けています。この調査については明治大学広報部『M-style』VOL.6にて紹介しました(鈴木「大学史の散歩道 76 学校を発掘する(その12) 松江の法律教育-博審学校・松江法学講談会など-」)。

(鈴木 秀幸)

- ③岸本辰雄関係資料調査〈2006年5月22日

(月)～24日(水)・鳥取市歴史博物館(鳥取市上町)、鳥取県立博物館等(鳥取市東町)〉

下記創立者関係貴重資料の複製・撮影と鳥取藩政資料の調査を実施しました。また展示協力を行った鳥取市歴史博物館「日本初の女性弁護士 中田正子」展への貸出資料の返却確認もあわせて実施しました。

(阿部 裕樹)

- ④鳥取藩池田家関係資料調査〈2006年9月1日(金)すみだ郷土文化資料館(向島2-3-5)、池田家跡地(東向島3-26～29 現在民家)、9日(土)弘福寺(向島5-3-2)、16日(土)すみだ郷土文化資料館〉

鳥取藩池田家は岸本のかつての主家です。この調査では同家が明治5年に東京南葛飾郡寺島村に構えた邸宅・久松閣跡地や、鳥取藩関係者の墓所等に関する調査を行いました。

明治期になっても、両者は有形無形の関係で結ばれていました。岸本は明治法律学校の経営資金をかつての主君・池田輝知に求め、池田はこれを拠出します。

久松閣は鳥取出身学生のための寄宿舎の役割も果たしており、他方で岸本はその運営にも関与しました。



久松閣跡地

(鈴木 秀幸)

II 三木武夫関係

- ①三木武夫関係資料調査〈2006 年 6 月 23 日（金）～24 日（土）・前田和正家（徳島県阿波市・日新酒類代表取締役社長）、長尾啓太郎家（同徳島市）〉



長尾啓太郎氏と「徳島新聞」の取材を受ける

2004 年に三木睦子氏から三木武夫元首相の資料を受けたことを契機として、センターでは継続的に調査を実施しています。今回は三木の郷里・阿波市土成町にて縁者の校友大野利夫氏に聞き取り調査を行ったのち、校友前田和正家所蔵の古新聞類を閲しました。翌日は明治大学雄弁部で三木の上級生だった長尾新九郎が残したアルバムなど多くの資料を令息啓太郎家にて閲覧・撮影しました。なお本調査の様子は 6 月 24 日付の『徳島新聞』に掲載されました。

(渡辺隆喜・村松玄太)

- ②三木武夫生家関係資料受贈・徳島県立図書館・文書館調査〈2006 年 12 月 8 日（金）三木武夫生家（徳島県阿波市土成町）、9 日（土）徳島県立図書館・同文書館（徳島市八万町）〉

三木生家に残された関係資料の追加寄贈を受けました。内容は文書 700 点（段ボール約 80 箱）・写真パネル約 40 点・書幅類約 20 点です。大審院長・明治大学学長をつとめた横田秀雄の書幅や選挙関係資料など、三木の地元での政治

生活を探る上で貴重な資料が数多く含まれていました。あわせて徳島県立博物館および同文書館所蔵資料を調査し、徳島県下地域資料の残存状況について把握しました。

(鈴木秀幸・村松玄太)

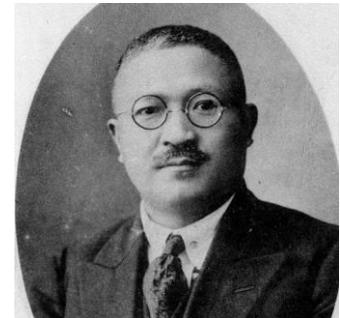
III 人権派弁護士関係

- ①布施辰治関係資料調査〈2006 年 8 月 1 日（火）石巻文化センター、2 日（水）日石巻市蛇田、布施辰治生家、顕彰碑巡見〉

明治大学では野にあって、個人の尊厳獲得を目指して活動した「人権派弁護士」を数多く世に送り出しました。センターでは 2006 年度から「人権派弁護士研究会」（研究代表・山泉進法学部教授）を組織し、これらユニークな法曹の共同研究を開始しました。

今回はそのうちの一人である布施辰治（1880-1953）について、郷里の宮城県石巻市にて調査を実施しました。

布施は明治末年から大正期にかけて、官憲の弾圧にあいながら数多くの労働



布施辰治

争議の弁護にあたりました。戦後も

三鷹・松川事件など、労働事件の救護活動に関わっています。また朝鮮独立運動の指導者たちを弁護したことで知られ、2004 年、韓国政府から日本人としてはじめて建国勲章を追贈されています。著書も多く、2007 年度にセンター編による『布施辰治著作集』（ゆまに書房刊）が刊行される予定です。

調査では石巻文化センターに収蔵されている布施関係資料を閲したのち、庄司捷彦氏（弁護士・布施辰治顕彰会）、今野眞氏（北上川と歩

んだ先人を顕彰する会)のお話をうかがいました。翌日は布施の生家跡や顕彰碑などを巡見しました。

なお、研究会の組織や資料調査の様子は各紙地方版に掲載されました。詳しくは本誌後掲の「新聞雑誌等掲載記事一覧」をご覧ください。

なお調査参加者は渡辺隆喜・山泉進・村上一博・佐藤喜代治・飯澤文夫・鈴木秀幸・木村厚子・阿部裕樹でした。

(阿部 裕樹)

②布施辰治等関係資料調査〈2006年11月24日
(金)吉野作造記念館・古川図書館郷土資料室
(以上大崎市古川)、25日(土)石巻文化センター
(石巻市南浜町)、26日(日)石巻市図書館郷土資料室
(石巻市羽黒町)〉

24日は吉野作造記念館を見学し、明治文化研究についての尾佐竹猛と吉野作造の共通認識を確認するとともに、同館研究紀要を閲覧して、吉野のヨーロッパ留学時代の事跡と人的な交流(とくに佐々木惣一)について知見を深めました。また市立図書館郷土資料室において古川市史など郷土資料を閲覧しました。

翌25日は石巻文化センターにおいて、布施関係文書のうち、2件の裁判関係資料を撮影、明治大学図書館および中村正也氏が未所蔵の個人史のバックナンバー数点を複写しました。最終日は石巻の明治期代言人・代言舎および裁判所関係記事を検索しました。

(村上 一博)

③山崎今朝弥関係資料調査〈2007年3月21日
(水)赤羽一生家等(塩尻市)、山崎今朝弥生家等(岡谷市)、諏訪市図書館、山崎弁護士事務所跡地等(以上諏訪市)〉

山崎(1877-1954)は布施と数多くの事件の

弁護や救済活動で行動をとともにしました。とくに社会主義者との交流やその弁護活動などで大きな活躍を見せています。戦後は布施とともに三鷹・松川事件の弁護を行いました。独特なリズムでつづられる文章には読者も多く、著書のアンソロジーが『地震・憲兵・火事・巡査』と題されて岩波文庫に収録されています。

調査では山崎と交流のあった社会主義者巖穴赤羽一の家や墓所を調査した後、山崎生家当主山崎勝・米子氏から聞き取りを行いました。また周辺故地を巡見し、山崎縁者を新たに見いだしました。

翌22日は山崎が弁護士事務所を構えた諏訪市にて図書館所蔵資料調査し、弁護士事務所跡、裁判所跡などを巡見しました。

(山泉進・飯澤文夫)

④明治法律学校・明治大学出身弁護士等関係資料調査〈2006年9月14日(木)静岡県立図書館(静岡市駿河区)、15日(金)静岡大学人文学部橋本誠一研究室〉

14日は静岡県立図書館において、静岡県弁護士会史や評伝類を閲覧し、明治法律学校出身代言人・弁護士に関わる記事を収集しました。翌日は静岡大学人文学部の橋本誠一教授の研究室を訪問し、橋本氏が『在野「法曹」と地域社会』(法律文化社、2005年3月刊)において検討された鈴木信雄弁護士関係資料について説明を受けました。また氏からはすべての資料の借用を快諾されました。

(村上 一博)

IV 安藤正楽関係

安藤正楽関係資料補足調査〈2006年8月8日(火)・9日(水)四国中央市立暁雨館(四国中央市土居町)、10日(水)愛媛県立図書館(松山市堀之内)〉

2000 年度から実施している共同研究プロジェクトの最終調査です。安藤 (1866-1953) は明治法律学校を卒業後、郷里の愛媛と東京を往復しながら政治家・文人・非戦思想家として活動しました。かたわら歴史論や考古学に関する多数の手稿を著します。また書画や漢詩、短歌などでも多くの作品を残しました。センターでは安藤正楽研究会 (代表・玉井崇夫文学部教授) を組織し、膨大な資料群の整理を進めながら調査をしていました。

安藤宛書簡類を暁雨館で二日間にわたって閲



覧・撮影した後、愛媛県立図書館にて、補足的な地誌類調査、そして柚山俊夫氏 (元愛媛県史編纂委員) から地域資料の残存状況等についてお話をうかがいました。

なおこれまでの成果は『大学史紀要第 11 号』にて安藤正楽特集を組み、報告しました。

(玉井崇夫・山泉進・村松玄太)

V 畑耕一関係

畑耕一関係資料調査〈2006 年 8 月 22 日 (火)・23 日 (水) 広島市立中央図書館、24 日 (木) 広島県立図書館〉

畑耕一 (1896-1957) は大正から戦前期にかけて、小説家、評論家、劇作家、ジャーナリストと幅広く活躍した人物です。1925 年には本学講師、1927 年からは教授として教壇に立ちました。大学においては文科復活運動に



関わり、「若人明治の歌」(1928 年)をはじめとする大学応援歌を作詞しました。

1997 年には未亡人畑愛子氏から同氏の著作等が本学図書館へ寄贈

されています。2005 年には畑の甥にあたる渡辺白蘭家を訪ね、同氏所蔵の畑関係資料を拝見しました。

今回の調査では、22、23 日に広島市立中央図書館広島資料室所蔵の畑関係資料を調査しました。内訳は図書 30 点、雑誌 120 点、原稿 150 点、色紙・短冊 10 点、写真他 30 点である。24 日は広島県立図書館にて「中国新聞」「朝日新聞」広島版などの訃報、追悼記事、郷土文学雑誌等を閲覧しました。

調査については紀要第 11 号にて紹介しました (飯澤「応援歌の作詞者畑耕一」)。

(飯澤 文夫)

VI 武石益則関係

武石益則墓所調査〈2006 年 10 月 14 日 (土) 武石墓所 (今治市大三島町野々江)〉



武石益則 (1921-1945) は1943年に明治大学を繰り上げ卒業となって応召、1945年にフィリピンで戦死した学徒兵です。ニュースレター第1号で既報の通り、2006年度第1回企画展「明大生と学徒兵」(7月1日~8月19日)では富樫直

センター業務記録 (2006年7月~12月)

子氏から寄贈された武石関係資料にスポットを当てました。

展示終了後、1973年に建てられた武石墓所の調査を行いました。しまなみ街道の中間地点・大三島野々江の小高い墓地に墓所はあります。墓誌には次のようにつづられていました。

老父万涙

児益則接戦死報 老父今日断腸感

応召出陣有遺文 尊重其意送余生

(鈴木秀幸・村松玄太)

VII 森川直秀関係

森川直秀家関係資料調査〈2006年10月26日
(木) 森川直秀家(鎌倉市)〉

森川氏(元東洋刃物会長)は1919年に香川県に生まれ、旧制香川県立三豊中学校を卒業後、明治大学予科をへて、1944年に同法学部を卒業しました。ご令嬢岩間みどり氏から同氏から戦中の予科・法科特別研究室の様子・教員・学生などとの交遊について貴重なお話をうかがうことができました。

また森川氏からは、当時の貴重な写真が多数含まれたアルバムや、いままで執筆した多数のエッセイ類、また同氏友人の呉鐸根氏作の絵画「白鳥の思索」等を受贈しました。

(鈴木秀幸・村松玄太)

VIII 光妙寺三郎・井上正一等関係

光妙寺三郎・井上正一等関係資料調査〈2006年12月7(木)~9日(土)山口県立 山口図書館、山口県文書館(山口市後河原)〉

光妙寺(1849-1893)、井上(1850-1936)は創立者たちの知友で、ともにフランスに留学して法律を学び、司法官僚として活躍するかたわら、創立期の明治法律学校に出講していました。光妙寺は周防、井上は長門の武士の家の出

で、いずれも山口にゆかりの深い人物です。

調査では、山口県立図書館および山口県文書館に収蔵される県庁伝来旧藩記録(毛利家文書目録)「諸文庫仮目録」小川五郎収集文庫や各種自治体史などから両名に関係の深い資料の閲覧・複写を行ないました。

(渡辺 隆喜)

IX 学内資料関係

当センターでは従来から「地方」「校友」を調査の主要な柱に掲げていました。いままでご紹介してきた調査は学外卒業生を中心としたものです。

他方で近年強く叫ばれているようになってきた情報公開や非現用文書一括管理の潮流への対応も進め、学内資料の調査・収集も積極的に行っています。

2006年度は、広報部・財務課・教育研究システム課・学生課・入試事務室・図書館庶務課・博物館事務室等から多数の資料が移管されました。センターでは必要な資料を選別後、目録を作成して保存し、将来の利用に備えます。



資料室内部。移管された資料を保管する

(大学史資料センター事務局)

情報・資料のご提供について(お願い)

明治大学史に関する資料をひろく収集しております。どのようなことでも結構ですので、センター事務局(03-3296-4329・4085)までお気軽に御連絡ください。

頂いた情報・資料は整理して永く保存し、将来の明治大学史のために活用します。

新聞・雑誌等掲載記事一覧

1 執筆記事

(1) 『明治』関係

「目で見る明治大学の歩み 25 お茶の水界限」『明治』第 30 号、2006 年 4 月

「同 26 明治大学復興計画」同 第 31 号 2006 年 7 月

「同 27 創立者の胸像」同 第 32 号 2006 年 10 月

「同 28 描かれた校舎」同 第 33 号 2007 年 1 月

(2) 『明治大学広報』関係

「岸本辰雄先生の郷里鳥取で 明大のイベント開催」『明治大学広報』第 569 号 2006 年 3 月 1 日

「日本初の女性弁護士 「中田正子」展開催 鳥取で」同 第 570 号 2006 年 4 月 1 日

「明大卒「人権派」弁護士再評価へ 布施辰治らの調査開始 大学史資料センター」同 第 575 号 2006 年 9 月 1 日

(3) 『M-style』関係

飯澤文夫「大学史の散歩道 72 明大図書館の揺籃―地域開放、社会連携に始る―」『M-style』VOL.2 2006 年 5 月
20 日

吉田悦志「同 73 〈孤〉に徹する〈個〉が、輝くとき～平出修・古賀政男そして植村直己」同 VOL.3 2006 年 6 月
20 日

渡辺隆喜「同 74 渡辺嵩蔵と松下村塾―近代化と維新时期海外留学生」同 VOL.4 2006 年 7 月 10 日

山泉進「同 75 和泉キャンパスの二本のヒマラヤ杉」同 VOL.5 2006 年 9 月 20 日

鈴木秀幸「同 76 学校を発掘する(その 12) 松江の法律教育―博審学校・松江法学講談会など―」同 VOL.6 2006
年 10 月 20 日

別府昭郎「同 77 明治大学の「設立ノ趣旨」を読む」同 VOL.7 2006 年 11 月 20 日

村上一博「同 78 一瀬勇三郎「法曹界の乃木将軍」と称えられた控訴院長」同 VOL.8 2007 年 1 月 15 日

2 紹介記事

(1) 「岸本辰雄と明治大学 鳥取出身士族の挑戦」展関係(鳥取市歴史博物館との共催 2006 年 3 月 4 日～24 日)

渡辺隆喜「岸本辰雄と明治大学 鳥取出身士族の挑戦①「権利自由」「独立自治」『日本海新聞』2006 年 3 月 2 日

「岸本辰雄と明大の歴史 きょうから展示会」『産経新聞(地方版)』2006 年 3 月 4 日

「ふるさと人国記 明治大学の創設者・岸本辰雄」『産経新聞』2006 年 3 月 7 日

「岸本辰雄と明治大学展 鳥取市歴史博物館 「法学の父」顕彰 直筆の手紙など 120 点紹介」『日本海新聞』3 月 9 日

「岸本辰雄と明治大学展 鳥取 法曹界に残した功績紹介」『読売新聞(鳥取版)』2006 年 3 月 10 日

「近代開いた郷土士族を顕彰 鳥取で明大創立の岸本辰雄展」『山陰中央新報』2006 年 3 月 6 日

伊藤康晴「みゅーじあむべり 岸本辰雄と明治大学 鳥取出身士族の挑戦 主従関係超えた学徒」『朝日新聞(地方

センター業務記録 (2006年7月～12月)

版)』2006年3月10日

明治大学校友会鳥取県支部・岸本辰雄先生顕彰碑建設実行委員会編『岸本辰雄と明治大学 鳥取出身士族の挑戦』

2006年

(2) 資料協力「日本初の女性弁護士 中田正子」展関係(同 2006年4月15日～5月21日)

「県ゆかりの日本初女性弁護士 中田正子さん資料展示 鳥取で15日から」『読売新聞(地方版)』2006年4月9日

奥村寧子「みゅーじあむ便り 日本初の女性弁護士中田正子 法服など資料で回顧」『朝日新聞(地方版)』2006年4月14日

「女性弁護士 偉業たたえる 鳥取市歴史博物館 中田正子展始まる」『山陰中央新聞』2006年4月16日

「初の女性弁護士・中田正子さん 偉業しのび回顧展 鳥取」『日本海新聞』2006年4月17日

「初の女性弁護士 生涯紹介」『読売新聞(地方版)』2006年4月19日

伊藤康晴「おうちだに通信 明治大学の創立者 岸本辰雄の周辺」『市報 とっとり』第934号、2006年3月1日

鈴木秀幸「概観・明治大学の女子教育」『鳥取市歴史博物館平成18年度展覧会 日本初の女性弁護士 中田正子』(展示図録)、2006年所収

(3) センター主催第1回企画展「明大生と学徒兵」展(明治大学博物館特別展示室 2006年7月1日～8月18日)

「キャンパス 「戦時下の大学」展示」『毎日新聞』(夕刊)2006年8月11日

(4) 三木武夫関係資料調査

「三木元首に関連の資料 元徳島市長長尾さん宅に現存 渡米時記事やフィルムなど 母校・明大が調査」『徳島新聞』2006年6月25日

(5) 布施辰治関係資料調査

「布施辰治の功績に光を 挑戦独立運動家 弁護活動に尽力 来月、出身地石巻を訪問」『河北新報』2006年7月17日

「布施辰治(石巻出身)の生涯再評価」『石巻かほく』2006年7月27日

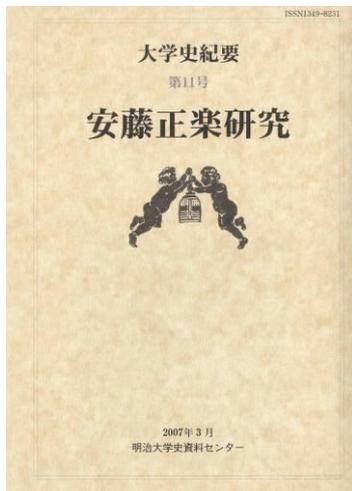
「朝鮮独立運動 小作争議に尽力 布施弁護士の活動 “追跡、明大研究会 出身地・石巻で調査 膨大な資料に驚き」『石巻かほく』2006年8月4日

「明治大学教授ら石巻に 人権派弁護士 布施辰治の足跡たどる」『石巻日日新聞』2006年8月3日

「布施辰治再評価へ 戦前中心に活躍、人権派弁護士 研究者ら、出身の石巻訪問」『朝日新聞(地方版)』2006年8月3日

——大学史資料センター新刊案内——

大学史紀要第 11 号 **安藤正楽研究** (A5 判並製 334 頁 頒価 800 円)



明治法律学校卒業後、愛媛で活躍した政治家・文人・反戦思想家安藤正楽（1866-1953）。全人的活動とその周辺をたどり、「駿台学」の一系譜を照射する。

〈目次〉

生活環境とその生涯／学問と思想／年譜・書誌 ほか

大学史資料センター事務室報告第 28 集

大学史活動 (B5 判並製 143 頁 頒価 500 円)



特集 新たな大学史資料の利用

様々な大学史活動を通して蓄積された資料をどのように利用していくべきか。展示や情報公開など多彩な活用の実践報告。

〈目次〉

大学史活動としての戦争展／企画展「明大生と学徒兵」

記

録／学徒兵展へのコメント／資料公開研究 ほか

ニュースレター 明治大学史 URL <http://www.meiji.ac.jp/history/>

発行日 2007年3月31日
編集・発行 明治大学史資料センター事務室
住所 101-8301 千代田区神田駿河台 1-1
電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086
E-mail history@mics.meiji.ac.jp